

は　　じ　　め　　に

我が国の水産業は年々危機が叫ばれながらも昭和４６年の海面漁獲量は９１３万トンとなり史上最高を記録しました。

しかし魚種別にみると総漁獲量の４３％が北方トロール及びまき網漁業によるスケトウダラとサバで占められており、沿岸漁業の飛躍的发展にはつながらない現状であります。

当水試では昭和４３年から４６年にかけて沿岸海域の水深底質図の作成を完了し、４６年から生物分布調査を開始していますが、これが完成しますと、本県沿岸魚類の分布ならびに資源量が明かになり、栽培漁業もしくは漁船漁業の基礎資料として有効に利用されるものと確信されます。

一方沖合における漁業開発も逐次実施しておりますが、ズワイガニ、スケトウダラ、バイ資源の実情も次第に明かにされ、４７年度からは深海におけるベニズワイガニの開発を計画しています。

最近本県漁民の依存度が高いスルメイカの来遊に変化が多く、イカ釣漁業経営の一大変革が予想される折柄、試験研究機関としても業界に寄与するため甘んじて縁の下の力持ちになり切る覚悟を新たにすると同時に、時勢に順応して転換の必要性が生じた場合の代替えメニューを整備して置き度いと思います。

大方の一層のご協力と援助を希望いたします。

昭和４７年１１月

青森県水産試験場長

馬　場　勝　彦